第45回 江戸川区廃棄物減量等推進審議会 議事録

開催日 平成27年9月7日(月)

会場 グリーンパレス 2階 高砂

新委員紹介

審議事項 (1) Edogawaごみダイエットプラン中間改定の素案について

江戸川区廃棄物減量等推進審議会事務局
(江戸川区環境部清掃課)

【事務局（岡崎課長）】

皆さん、こんにちは。時間前ではございますが、皆様おそろいでございますので、まず、会議に先立ちまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、資料1といたしまして、江戸川区廃棄物減量等推進審議会委員名簿(第8期)、資料2といたしまして、Edogawaごみダイエットプラン中間改定(素案)、資料3といたしまして、平成26年度清掃事業年報(抜粋)、資料4といたしまして、第44回審議会説明資料(平成26年度ごみ・し尿収集量(23区)について)、それから資料5といたしまして、平成26年度23区資源回収率についてでございます。なお、本日、第44回、前回の審議会の議事録を机上に配付させていただいております。

不足の資料がございましたら、事務局のほうにお声かけいただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、審議会開催に当たりまして、環境部山崎部長より、ご挨拶を申し上げます。

【事務局（山崎部長）】

皆さん、こんにちは。大変、足元が悪い中ではございますけれども、皆様方にはご参集をいただきましてありがとうございます。

前回、本年度の第1回審議会におきまして、今年度はダイエットプランの中間改定を進めていきたいというお話をさせていただきまして、今回は第2回目ということでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、今回から新たに松本委員さんが新加入ということでございまして、後ほどご紹介させていただきますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、少々お時間いただきまして、私から2点ほど、皆様方にご報告をさせていただきますたいと思ひます。

まず1点目ではございますけれども、これは、清掃一部事務組合という団体がありまして、そこから23区に分配金が支払われたということでございます。以前にお話しさせていただいておりますが、清掃事業は平成12年度前は東京都の事業でありました。ごみを収集し、運搬し、そして中間処理、いわゆる清掃工場に入れて、燃やして、そして最終的に、残った灰を中央防波堤外へ最終処分という形をとっておりますが、その全てを東京都が担っていたわけでございます。平成12年度以降、それを清掃移管ということで、特別区が担いましょうということになりまして、収集・運搬、そして中間処理、いわゆる清掃工場の部分まで、特別区それぞれが担いましょうということになりまして、そういう形で進めてきたわけでございます。

ただ、その過程の中で、収集・運搬、基本的には各区が独自にそれぞれ責任を持って担いましょうということでありましたけれども、23区域の中、全てを考えると、清掃工場、いわゆる中間処理の部分については、23区共同で行ったほうが合理的であるということになりまして、清掃一部事務組合という、自治法上の特別地方公共団

体にあたる組織をつくったわけございまして、その一部事務組合の中で清掃工場を運営し、ごみの中間処理を実施してきたというものでございます。収集・運搬、そしてごみのリサイクルについても各区の工夫の中で、腕を競い合って処理してきたという経過があるわけでございます。

この一部事務組合については、23区共同で行いましょうということになりまして、その前提条件として、極めて合理的な経営をしていかなければならないという要請があったわけでございます。その中で清掃工場の運営についてどう合理化していくかということが、区長会を中心に話し合われました。その過程の中で、清掃工場についても民間委託、いわゆるアウトソーシングをしていきたいと思いますということが決定されまして、その方向で進めていったわけでございますが、実は民間側に委託を受けてくれる組織がなかったんですね。プラントをつくった会社が、どうしても運営も担うというような、ややいびつな形での民間委託というものが実施されていたわけでありまして、それでは、いわゆる公平性とか透明性、そういうものが担保されないということで区長会を中心に話し合いをいたしまして、23区の中で新しい会社をつくりましょうということで、東京エコサービスという会社をつくりました。これは23区とガス会社のお力を借りて、ある割合で出資をいたしまして、東京エコサービスというものをつくりました。この東京エコサービスが清掃工場の一部の業務を行っております。

もう一つ、清掃工場は発電施設としても非常に有効なものでございまして、売電収入がございまして、最近は大体100億円ぐらいの売電収入がありますけれども、この東京エコサービスは優良経営を続けております。平成18年に設立され、2年目から黒字化し、今まで累積した黒字を今回初めて23区に分配することになったということでありまして、今までの経過も含めて長いお話でございましたけれども、そういうことで今回、分配金として1区当たりになりますと208万円という、それほど額ではないのでありますが、そういうものが分配されたということをご報告させていただきました。

それからもう一点は、これは毎年のごとでございまして、昨年度、26年度のごみ量につきまして、数値が確定いたしました。前年度と比較いたしますと、1.6%減、数量でいきますと、2,710トンほど減量することができたということで、これはもうずっと一貫して減量トレンドにあるわけでございます。例えばごみ収集車で換算いたしますと、1,860台分のごみを1年間で減量することができたということございまして、こういうことも、私どもとしては適切に情報として、住民の皆様にもお伝えしていかなければならないことかなというふうにも思っております。

少々長くなりましたけれども、冒頭でお話ししましたとおり、本日は、ごみダイエットプランの素案について、皆様方から活発なご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

【事務局（岡崎課長）】

ここで、新たに委員になられた方をご紹介します。

区商店街連合会会長の松本勝義委員でございます。一言ご挨拶をいただけますか。

【松本勝義委員】

初めまして、江戸川区商店街連合会の松本でございます。この会議は前会長の杉本さんが、非常に熱心にやられたということを知っておりまして、私も、杉本さんほどできないかも知れませんが、努力する所存でございます。

皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。（拍手）

【事務局（岡崎課長）】

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、岡島会長、よろしくお願いいたします。

【岡島会長】

それでは、ただいまから第45回江戸川区廃棄物減量等推進審議会を開会いたします。

今日の議事は1つですので、時間はたっぷりあるかと思います。また、松本さん、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の審議ですが審議事項は1件です。事務局から説明をお願いします。

【事務局（岡崎課長）】

それでは、ご説明させていただきます。

お手元にあります資料2をご覧ください。こちら、Edogawaごみダイエットプランの中間改定（素案）でございます。

まず、1ページでございますが、一番上にありますとおり、中間改定の背景でございます。中段に図がありますが、このスケジュールのとおりでございます。

現行計画は、長期的視点に立った計画期間11年のものとなっております。この第2期から第3期と菱形になっているところが、11年間でございます。今回の中間改定は、平成27年度の短期目標年度において、社会経済情勢などの変化に対応した見直しを行いまして、最終年度であります平成33年度までの今後6年間の事業実施に必要な改定を行うということでございます。

そこで、2のところになりますが、第2期の改定後の清掃事業を取り巻く状況の変化につきましては、まず1つ目として、国の計画でここにありますとおり、第三次循環型社会形成推進基本計画が平成25年5月に策定されました。それまでも、計画では廃棄物処理の基本というのは、ここにありますとおり、リデュース、リユース、リサイクルの頭文字をとりまして、3Rというふうに規定しておりましたが、今回の新たな計画では、廃棄物の発生そのものを抑えることを優先課題として、再資源化に先立って行うべき2R、発生抑制と再使用を全面に打ち出しております。再資源化、リサイクルについては、引き続き廃棄物処理の手段の一つというように位置づけしておりまして、これらのことを前提にいたしまして、環境保全と安心・安全の取り組みを強化するというよう

なことが、今回の計画では求められております。

続いて2ページをお願いいたします。また、各種リサイクル法の整備でございますが、この間、平成25年4月に使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律、いわゆる小型家電リサイクル法が施行されております。ここにありまして、携帯電話、ゲーム機などの小型家電等の家電製品を広く対象としておりまして、それらに含まれております鉄とかアルミ、レアメタル等の有用金属を埋め立てるのではなくて、有効利用することを目的としております。

そのほか、ここにありまして、容器包装リサイクル法とか食品リサイクル法等、見直しが進められておりまして、まだ最終的な方向性が示されておりませんので、中間改定後に対応が必要になることが予想されます。そういった状況も含めて、今後もさらに清掃リサイクル事業をより良いものにしてまいりたいと考えております。

そこで、3番でございますが、計画前半期の実績につきましては、前回は少しご説明させていただきましたが、ここで26年末の達成状況、確定値が出ましたので、改めて、この表でお示しさせていただいております。

区民一人1日当たりのごみ量につきましては、順調に長期目標の達成に向けて推移しておりますが、資源回収率につきましては、短期目標値を下回ることが予想されておりまして、さらなる取り組みが必要だと考えております。

続いて3ページをお願いいたします。現行計画策定後の新たな取り組みにつきましては、予定のものも含めまして、この3ページから4ページにかけてお示しさせていただいております。

まず1つ目は、古着・古布リサイクル回収です。これにつきましては何度もお説明しておりますが、23年4月から、この表にありますように、さまざまな手法を進めてまいったところでございます。

また、次の2つ目の丸でございますが、粗大ごみからの有用金属の回収につきましては、25年4月から、先ほどの小型家電リサイクル法の実施を受けて、いち早く取り組んでまいりました。

4ページをお願いいたします。2つ目の丸にありますとおり、28年4月からは、燃やさないごみからの小型家電リサイクルに取り組む予定になってございます。

3ページ、またお戻りください。続きまして、3つ目でございますが、事業者団体との連携ということで、これも各種団体に働きかけを行いまして、レジ袋の削減、マイバッグ運動といったことを中心に推進してございます。

また、その次の資源持ち去り対策の強化につきましては、26年12月には、この対策として、特別区17区と古紙問屋などの4社間で、覚書を締結いたしまして、GPS追跡調査等、各主体が連結して対策に取り組んでいるところでございます。

また、その次にありまして、27年6月には家庭で余っております食品等を持ち寄って、NPO法人等を通じて、社会福祉施設等に提供するフードドライブという取り

組みを実施してまいりました。これは環境フェア2015でも実施いたしまして、705点、197キログラムを回収し、今後は、2回目として区民まつりで実施する予定となっております。このフードドライブにつきましては、「広報えどがわ」の8月10日号で、食品ロス削減、ごみを出さない暮らし方というふうなことも含めて、1面で訴えてきたところでございます。

4ページをお願いいたします。まず1つ目の丸でございますが、若い世代に向けて働きかけをしていこうということで、今年度新たにごみダイエットin文化祭を行いました。これは区内の公私立高校に働きかけを行いまして、生徒みずからがごみ減量に関するブースを企画・展示して、同世代の方へ情報発信していただくというようなことで、区は、展示品の貸し出し、記念品の支給などの支援を考えております。今年度はご覧の4校で実施する予定になってございます。

また、3つ目の丸でございますが、いよいよ2020年に東京オリンピック・パラリンピックが予定されてございます。これを契機として、ごみ減量や資源循環型都市の一層の推進を図ろうということで、意識啓発を含めたいろいろな取り組みを、今後力を入れてやっていきたいというふうに考えております。

4の今後の改定の方向性につきましては、前回もお話しさせていただきましたが、今回は全体の長期計画の中間見直しでありまして、現行計画に基づき、まず施策は概ね有効に機能しているということから、大幅な改定はせずに、現行計画の基本方針、施策体系は基本的に維持しつつ、先ほど申し上げましたような社会環境、廃棄物行政の変化を反映した内容に見直ししていきたいと考えております。

下の図にありますとおり、施策体系等、このような形になっております。

そこで、5ページをお願いいたします。目標達成に向けた施策展開でございますが、ここでは項目、多岐にわたりますので、今回見直したものを中心にお話をさせていただきます。

まず(1)の環境学習・意識啓発の促進では、として情報の提供。こちらは8項目ほど掲げさせていただいておりますが、まず1つ目は、キにありますとおり、メールサービスの検討というのが今まで入っております。これにつきましては、アのさまざまな情報の提供ということに今回、含めるということで、見直しをさせていただきました。新たにキといたしまして、ごみ減量・3Rを意識啓発する清掃車両のラッピング。これは、先ほど申しました東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みということでございまして、もう一つは、外国人に対するわかりやすい分別表示の研究ということで、例えばピクトグラムなどこういったものも含めて、研究できないかということで追加させていただいております。

また、の環境学習の充実では5項目、挙げておりますが、まずエのごみ減量講演会の開催につきましては、今現在、より参加者や団体の人数に対応していこうということで、出前講座に一本化する形で実施しておりますので、こちらの見直しをさせていただ

いております。

そこで新たに、先ほど申しました学校文化祭などへの支援というものを追加させていただきます。

次に、(2)の区民・事業者・区による協働体制づくり。こちらでは、といたしまして、区民や事業者の組織との連携・協働。ここでは5項目ということで、1つ目は、伊にありますとおり、先ほどご説明しました事業者団体との連携というのをさらに強化していくというふうな方向で、ここも拡充をしてみたいと考えております。

それから、6ページをお願いいたします。こちらは、(3)のリデュース・リユースの促進。ここではまずといたしまして、生ごみ減量の推進。こちら4項目ございますが、新たに食品ロス削減の取り組みといたしまして、先ほどご説明しましたフードドライブの実施を追加させていただきます。

また、のマイバッグ運動の推進につきましては、ウに手作りマイバッグコンテストの開催というのがございましたが、こちら、こういったことを進める中で、マイバッグという言葉も相当浸透してまいりまして、この事業は役割を終えたのではないかとということで、24年度にこの事業を廃止するというようなことをしておりまして、今回、見直しをさせていただくというものでございます。

、につきましては、引き続き着実な事業展開を図ってまいりたいと考えております。

7ページをお願いいたします。(4)のリサイクルの推進では、の資源回収の促進といたしまして、まずウの拠点回収の促進。ここでは、先ほどお話しさせていただきました古着・古布リサイクル回収等、施策をさらに拡充してまいりたいと考えております。

また、オの資源持ち去り対策の強化につきましても、先ほどご説明しましたとおり、こちらも拡充を図ってまいりたいというふうに考えております。

また、のリサイクルの仕組みや制度の充実、こちらの項目では、新たにウといたしまして、小型家電リサイクル法に基づくりサイクル促進という部分を促進というものを追加させていただきます。

続いて8ページをお願いいたします。こちらの8ページ、9ページの(5)環境負荷の少ない適正なごみ処理の推進。また、9ページの(6)ごみ処理コスト縮減と処理経費負担の適正化につきましては、引き続き着実な施策展開を図ってまいりたいというふうに考えております。

その下の段の6のその他主な見直しにつきましては、社会環境、廃棄物行政の変化を反映させていくとともに、最新のデータに更新させていただきたいというように考えております。

ごみダイエットプランの中間改定の素案につきましては以上でございますが、このほか、今日、資料3として、先ほどご紹介しました平成26年度の清掃事業年報の抜粋、また資料4といたしまして、前回の審議会で口頭で説明させていただきました23区に

おけます本区のごみ・し尿収集量の状況について。また、資料5につきましては、23区における資源回収率についてを載せさせていただいております。

説明については以上でございます。あわせて、これらの資料をごらんいただきながら、ご意見等いただければと思います。ありがとうございました。

【岡島会長】

ありがとうございました。それでは、ただいま説明のあったこと、全体的な話と個別の話がありましたけれども、どちらからでもご意見をいただきたいと思います。それでは皆さんに順番に発言していただくと思っておりますので、よろしく願いいたします。全体のことでいいし、個々のことで結構です。気がついたところで結構です。よろしく願いします。

【小野瀬委員】

3ページの古着・古布リサイクルの件でございますが、前回も私、申し上げたわけでございますが、23年度から始めまして、23年度はそこその成績、24年度になると減って、25年度がまた増えて、26年度になると少々減ってきております。27年度はまだ途中でございますので、これはこういう数字かと思いますが、事業の当初は収集場所が区内にたしか18カ所だったと思ったんです。それが22カ所に増えているのにもかかわらず、区民の回収所に持ってくる人が少ないというのは、何かその原因があるのか。あるいはPR不足なのか。一般の人にそれほど浸透していないから、こういう結果になるのか、わかりませんが、せっかくこのようなすばらしい企画を立てていただいたわけですから、これを最大に生かすためには、もうちょっと行政が何かしらの形で、これを……。

私のところは、回収日がたしか第4土曜日だと思うんですが、それを増やすということは、かなり難しい問題だと思うんです。車両の手配から人間の手配までしなきゃなりませんから。ただ、減ってきているのも事実でこれをもうちょっと効率的にさせていただいて増やす方法を考えなければならないと思います。区民にもう少しわかりやすい方法をとっていただいたら、もうちょっと効果が上がるんじゃないかなと思っております。

【岡島会長】

ありがとうございました。この件については以前も、小野瀬さんからかどうかわからないんだけど、何か絶対量が減っているみたいなお話ありませんでしたかね。何かお答えがあればお願いします。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございます。前回もいろいろと議論があったところかなと記憶しておりますけれども、23年度にかなり増えておりますのは、初めてこれを行ったということで、皆さんには結構インパクトがあって、それでは出そうということで、今までご家庭で眠っていたものが、一度に出てきたというところもあって、23年度はまとまって増えたのかなと。それが、ある一定程度、落ちついてきて、徐々にまた上がってきているとい

うようなことであると思います。

ただ、今お話ありましたとおり、我々も「広報えどがわ」もはじめ、チラシもつくったり、いろんな形でお知らせはしているところなんでございますが、まだ知られていないということもあろうかと思しますので、その辺のPRの方法については検討したいと思ひますし、前回の委員の皆様からも、出すのに遠くて行けないというようなお話もありましたので、そういったことも踏まえて、何か手がないかと。また、集団回収の中でというようなご紹介もいただきましたところですが、そういったことも含めて、あらゆる手段をもう一度いろいろと考えながら、少しでも皆様が出しやすいやり方を考えていきたいと考えております。

以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございます。

【松川委員】

今、小野瀬さんの続きで申し上げますと、前回、私、申し上げたような気がするんですけども、集団回収に組み入れたらどうかなというのが、自分の地域を見ても、そういう感じがするんです。まだまだ家の中にたまっているものが、たくさんあるのかなという実感がありますので、それをぜひという気持ちがあります。

それと、これ見ていて感じたちょっと疑問。資源持ち去り対策の強化というのが、その下にありますよね。要するに缶とか、一般の方が持って行ってしまって、そういうののことですよ。いつも疑問に思っていて、詳しいことが私、よくわからない部分があるので、後で説明していただけますか。あれがどのように流れて……。例えば私たち、普通に思えば、どこで回収しようが、ごみが回収されていれば、それは行くところは同じだからというような感じがするんです。普通に回収するのと、持ち去るのと、最終的にはごみの減量になるかと思ひますが、ただ、その過程でいろいろな経費がかかるかと、いろいろあるんでしょうけれども、そこがちょっとよくわからなくて。

【岡島会長】

岡崎さん、簡単に説明していただけますか。ある意味では、民営化というのと同じことですね。

【織副会長】

所有権がどこにあるのかという問題も、ちょっと絡めて言ってもらえますか。住民としては、廃棄したのですがそこに置かれているものを持ち去るのは泥棒なのかどうか。それが区が処理しなくちゃいけないものになって、区の所有物になっているのか。全然価値がなくて、とってもしょうがないものだったら、そういう問題は出てこないわけですけども、売ればお金になるところだと、その所有権の問題もあると思う。ちょっとその辺も含めて、ご説明いただければと思ひます。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございます。これにつきましては今、織先生のほうのお話ありましたとおり、これ、資源として出されるものではありませんが、基本的に行政回収の資源回収で集積所に出たものについては、無主物というものになって、これを持っていても、窃盗罪には当たらないということになります。ですので、罪には問われないんです。ただ、区民の皆さんが、区の資源回収として、区に出していただいたというものでありますので、区としては、それについては区に出されたものなので、持っていかないでほしいというふうなお願いをしているところでございます。

経費の関係ですけれども、これにつきましては、確かに区で回収すれば、経費もそれなりにかかります。ただ、それについては、今度は売却すれば、売却収入という形で入ってきますし、区で回収する際も、一つの量を目安にして、経費としてはかけていますので、その売却収入が入らないということになれば影響があるわけです。区としてはこれについては、古紙とか空き缶もそうですけれども、持ち去りをしないでほしいというようなことでお願いしています。ただ、それがなかなか実効性が伴わないような部分があるものですから、業界団体とも連携して、一步踏み込んだ対策をとるという形で行っているものでございます。

以上です。

【岡島会長】

よろしいですか。いろいろあるでしょう。今、織先生がおっしゃったように、大変難しい問題もあるし、条例でもつくらなきゃいけない可能性もあるしね。

【織副会長】

ちょっといいですか、その点に対してなんですけど。今、有価で売れるから持ち去るわけですよね。これは一たび価値がなくなったら、その人たち、とっていつてくれないわけですね。そうすると、リサイクルのシステムをつくっていくときに、今はもうかっているから、持っていつちゃっているところで、例えば工場とかをつくって、区と一緒にリサイクルを回していこうという人たちは、物が入ってこなくなっちゃうわけですよね。物が入ってこないと、運営ができなくなってしまうということになると、つぶれてしまうということになってしまいますよね。そうすると、今度、資源価値が下がってしまったときに、ちゃんと区が回収して、それをリサイクルする施設がなくなってしまうということも、長期的には考えなくちゃいけないんですね。有価で回っているときは、確かに経済的にそういう形でとっている人でも、結局は同じことじゃないという話になるんですけれども、これが価値がなくなったときに、今の区のリサイクル政策を支えてくれるリサイクラーの人たちが、生き残っていくためには、常に安定的に供給されるという側面も、すごく重要なので、それがゆえに、みんなで、持っていかないでくださいねということも、あるということなので、よろしく願いいたします。

【松川委員】

すみません。基本的なことがわからなくて。

【岡島会長】

いやいや、みんなわかってないんですよ。結構です。

じゃ、続いて金子さん。

【金子委員】

4ページの施策体系の(2)のところで「区民・事業者・区による協議体制づくり」、たしか僕、この話については、前々回かなんかのときに言ったと思うんです。要は学校等、団体等を含めて、プラットフォームをつくるというふうな話をしたと思うんです。たしかこの会議だと思ったんですけども。じゃ、それ、どこでどういうふうに読むのかなと思ったんです。5の目標のところで見ると、商店会とか事業者団体等との連携とか、そんなところにくつつくのかなと思ったんですね。団体といっても、いろんなのがありますから、その中でおさまる話とおさまらない話があるんです。具体的に言うと、まちをきれいにしようとかいって、花を植えましょうみたいな団体があったり、いろいろしますけれども、その花をとって、そのまま生ごみに出すとかそういうことをやめましょうみたいな話をいろんなところであると思うんですよ。土の中へ敷き込めばいいわけですから。そういう話も含めて、プラットフォームをつくってみたいと思ったんですけども。

もう一つは、生ごみの肥料化の問題です。これも進めていかなきゃいけないとっているんですけども、これの研究みたいなこと、どこでやられるのかなと。私も工場を見学させていただきましたけれども、成分が定まらないということで、環境法令に違反するという話もあって、相対でやっているということで、なかなかペイしないですけども、ここについても、何かどこかで参考になるところがないかなと思うんです。

以上です。

【岡島会長】

プラットフォームについて、ちょっとお答えいただけますか。何か考えがあるのかどうか。

【事務局(岡崎課長)】

今、大きくごみの減量とかそういったリサイクルの部分で、プラットフォーム化するというふうなことは、まだにわかには、こちらのほうとしては想定しておりません。ひとつ言えることは、廃棄物減量等推進審議会が全体の区民の皆様、それからあと団体の方、もちろん業界の方含めて、一堂に会している場でもありますので、そういった意味では、区の全体のごみ減量とか3Rの推進ということについての方向性をいろいろと協議いただいて、示していただけるような場なのかなというふうには認識しているところですが、そこについては新たな場というのは、今は想定していないというところでございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。環境教育的な部分は、エコセンターなんかを担当したりしておりますけれども、ごみに特化したプラットフォームというのは直接、今はまだ考えて

いない。金子さんのほうは、考えたらどうかということですね。よくご意見を考えてみてください。

じゃ、続いてお願いいたします。

【隈元委員】

5 ページからの目標達成に向けた施策展開で、各項目ごとにわからないことをそれぞれ伺っていきますので、そういう聞き方でよろしいでしょうか。

まず、5 ページの(1) の中のオ、廃棄物管理責任者講習会の開催とありますけれども、これはいわゆるプロの方を対象にしたものなんでしょうか。一般人も対象になり得るのかということです。これについてお聞きしたいということです。

それから次、ここの のクのところ、外国人に対するわかりやすい分別表示の研究。これは想像すると、世間では英語あるいは中国語、韓国語といいですか、朝鮮語といいですか、あるいはスペイン語ぐらいが考えられるかと思うんですけれども、何カ国語ぐらいで、わかりやすいそういう案内、パンフレット等を作成するのか。これは研究となっておりますけれども、いつごろまでにそれをやり切るのかということをお伺いしたいと思います。

それから、次の のリサイクル施設等見学会の開催ですけれども、これ広報等を見ておきますと、子供さん向けといいですか、小中学生以下向けが多くて、人数規模が小さいような気がしていますけれども、これの展開について何か考えておられることがあれば、お教えいただきたいと思います。

あと、すみません。よく知らなかったんで、今度は(2) の中のエのもったいない運動えどがわとの連携。もったいない運動えどがわというのを私、存じ上げなかったんですから、非常に恥ずかしいんですけれども、こういったような連携がことのできるのか。言葉は非常にいいかと思うんです。こちら辺です。

それから6 ページの(3) 、イですね。ごみ減量に取り組む優良事業者の表彰。具体的にどんなことをした事業者を表彰するのかといったようなことは、一般区民にはわからないんで、こういったようなものが、典型例でいいですけれども、お教えください。

それからウのエコカンパニーえどがわ登録の呼びかけ、これも残念ながら、私、存じ上げていなかったんですけれども、何か特典とかいったようなものがあるのかどうか、そういったところを教えてください。

すみません。そのオの事業所におけるグリーン購入の促進、何を購入するんでしょうか。グリーンで、すくとんと落ちないんですけれども、こういったあたりも知りたいなと思いました。

次、 のエ、デポジット制度の研究、この研究は誰がやるのか。学者がやるのか、行政がやるのか、そこら辺。あるいは、我々のような審議員等がやるのか。そこら辺も、主体がどこなのかというあたりが、ちょっと知りたいと思いました。

それから7 ページ、 の一番下の剪定枝などの資源化の検討。資源化といいますと、

想像できるのはチップ化ぐらい。あるいは何かの材料にするといったようなのは想像できるんですけども、具体的な製品例等があれば、お教えてください。

次に 8 ページの (5) の 不法投棄への対応は、不法投棄した場合、おそらく罰則等があると思うんですけども、こういった罰則の周知といったようなことも必要ではないかなと思いましたが、これはどのような手段でなされるか、お教えてください。

の正しい分別排出というところのア、イあるいはウあたりは、見てみると、中身をよく知らないせいもありますけれども、一本化できないのかなというような気がいたしました。

次の ア、収集体制の維持・向上、この維持だけで果たしていいのか。もっと工夫して見直しするようなことは必要ないのかなと思いました。

次のイ、熟年者・障害者世帯の個別訪問収集も、やっていただいているとは思いますが、この間隔ですね。1月1回なのか、1週間1回なのかといったあたり、知りたいものだと思います。

あと 中のオ、安全・安心パトロール、これ行政がやるのか。誰がやっているんだろうと、全く知らないものですから、こちら辺もお教えいただきたいと思います。

次、9 ページの (6) の 中のア、廃棄物処理手数料の見直しとありますと、これは当然、引き上げ引き下げ、考えられるわけですけども、こういったようなことなのかな。こういった世の中ですから、おそらく引き下げというのではないのかなと想像しますけれども、アップについて考えておられるのかといったあたりですね。

それから 中のウ、事業系廃棄物の委託化の促進、具体的にはどこに、こういったところにといったことについて、お教えいただきたい。

それから、エの事業系有料ごみ処理券の適正貼付の徹底。適正貼付、どのように事業系のごみに張りつけるラベルとかがあるのかわかりませんが、具体的な例等をお示しいただければありがたいと思います。

次のオ、家庭ごみ有料化の調査・研究。有料化の調査と、ちょっと意味がよくわからなかったんですけども、お教えいただきたいと思います。

ちょっと細かいところにわたりましたが、簡単にお答えいただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

【岡島会長】

これ全部やっていると、1時間、2時間かかってもできませんから、それで、これについて、この表は目次なんですよね。目次についてのきちとした本文があるでしょう。皆さん、一応もらって読んでいるんで、それを前提に話をしているということですので、ここで今の説明はほとんどそういったことなので、書いてあることの中身について、もう一度、隈元さん以外でも初めての方でわからない方がいらしたら、きちんと説明を個別にさせていただくということで、いかがでしょうか。そうしませんと、今、これだけの項目を全部いちいち説明していたら、とても審議会にならないので。その中身について

は、一緒になられた方で、今言った前提となる第一次案から来ている、基本的にこれはどういうことだ。グリーン購入はこういうことだとか、今おっしゃったように細かいところは文章に入っているのがあるから、それを見ていただいて、ご説明するというところで、いかがでしょうか。

隈元さん、それでよろしいですか。

【隈元委員】

私も、こういった端っこを一回ぐらいしか、さあっと見ていないものですから、頭の中に全部残っていませんでしたので。細かいことですので、確かに。勉強不足ということで、結構でございます。

【岡島会長】

そこに書いてあることを前提として話が進んでいるということですので、書いてあることの説明をこの場ですると、議論にならなくなりますので、ぜひその辺のところは...。織先生、何かありましたか。特になければ、また事務局にお戻しします。

【事務局（岡崎課長）】

一点だけ。今、隈元委員さんからお話あった中で、新規事業の部分でお問い合わせがあったところがありましたので、そこを中心にちょっとお話をさせていただきますと、まず5ページの のクのところの外国人に対するわかりやすい分別表示の研究というところですけども、これ確かに何カ国語が、英語とかそういったもので表示するということもありますけれども、それ以前に、図で示すといいますが、そういったもので示しながらということが前提ですので。要はピクトグラムといいますが、そういった図示していくのにはどういうふうにしていったらいいかというふうなことでございます。その点だけだと思いますので。以上でございます。

【隈元委員】

ありがとうございます。

【岡島会長】

それでは、波多野さん、お願いします。

【波多野委員】

2点ありまして、まず3ページの先ほどありました「資源持ち去り対策の強化」というところで、特別区17区と古紙問屋の4者間で締結された。これ、江戸川区のこういう業者さんも入られて、締結されているということかどうかというのをちょっと知りたいのと、この具体的なGPS追跡調査って、どんなことをどこでやられているのかというところが知りたいというところ。せっかく今、先ほどありましたけれども、最終的にリサイクルされているからいいかという話だと思うんですけども、出される方は皆さん、家の中で分別、一生懸命して、それが区の何らか、財産になると思ってやっていると知っているんですね。それがぱっと持ち去られて、はっきり言って不愉快なんですね。なので、もし、それが防止できないのであれば、直接持ち込めるようなところをつ

くるとか、何かそういうところを。古着と一緒に、もう常に受けるところがあるとか。あと、よくあるんですけども、缶から入れるとお金が返ってくるとか何か、そんなことも考えてはいかがかなと思います。

それともう一点、資料5なんですが、ここで、資源回収率で一番いいっていう表があって、これトップが港区で29.9%で、江戸川区は20%って、約10%差があって、ちょっとこれ、ホームページで見ただけなんですけれども、港区ですと、資源ごみの中にプラスチックで、容器包装だけじゃなくて、製品のプラスチックが入っていたり、あとアルミが裏打ちされている、そういう合成されたプラスチックのようなものも回収されているということで、江戸川区は、それができないのは、なぜかなということ。もし、それやったとき、何か課題があるのかなということ、追いついていきたいなと思うんで、何か方策があるのか、そのあたりを教えていただければと思います。

以上です。

【岡島会長】

それでは、事務局、お願いします。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございます。まず、1点目の持ち去り対策ですが、これは主に東京都全体の団体ということになりますので、江戸川区の事業者も入っております。

それからあと2点目の資料5につきましては、製品プラをリサイクルルートに乗せますと、区として、それをさらに分別するための費用が必要になってくること等ありますし、またアルミ蒸着につきましては、この審議会の中で、大分前になりますが、どこまでどうリサイクルするかという中で、アルミ蒸着のものをリサイクルすることについては、ちょっとわかりづらい部分もあって、わかりやすいリサイクルをするためには、リサイクルする素材に返すというようなマテリアルリサイクルがあり、アルミ蒸着については、その当時の審議会の中で、それは今回はリサイクルには回さないというような仕切りをしたものですから、それが生きていくということでございます。今後こういったことも含めて、例えば粗大ごみの布団とか、まだまだリサイクルできるものはありますので、そういったものをさらにいろいろと追求していきたいというようには考えております。

以上です。

【岡島会長】

よろしいですか。

【波多野委員】

すみません。アルミ蒸着はできないのは、マテリアルにならないということ。今の出しているごみは、あれは焼却されているんですよね。マテリアルリサイクルではないんですよね。

【織副会長】

サーマルです。

【波多野委員】

サーマルですよ。何かその辺が。還元じゃないんですか。還元剤じゃなくて、サーマルですか。

【事務局（岡崎課長）】

今は燃やしています。

【波多野委員】

その意味では、蒸着したのも燃やしちゃって、だめなんですか。

【織副会長】

プラスチックのリサイクルは大きく分けて、容器のプラスチックのリサイクルというのがある。例えばヨーグルトとかマヨネーズみたいなものがありますよね。それは、どれくらい手間かかっても、容器リサイクル協会のほうで引き取って、お金を出して、やってくれるということがある。ただし、同じプラスチックでも、風呂おけとか傘とかそういうのは同じプラスチックだけれども、そこに混ぜていっても、リサイクルはされない。

ところが、港区は、それもあわせてプラスチックとしてリサイクルしましょうということで。ところが、これが結構、問題があって、じゃ、その中に例えばおもちゃなんかが入っていたときに、乾電池とか鉄分が入っていると、一緒にがあつと今までリサイクルできていたものが、有害物質というか、乾電池とか抜かなくちゃいけなくなってしまう。その手間暇がすごくかかってしまうので、容器リサイクルの枠の中でいっているものだけ集めたほうが、効率的なんじゃないかということと、市民としては、同じプラスチックなのになぜというこの辺の兼ね合いがあるというのが、1点なんですね。

もう一つ、容器プラスチックの中でも、ペットボトルとその他プラスチックみたいなものの中に、ポテトチップスみたいな形で後ろに銀紙が張ってあるような、レイヤーになっている2層のものがありますよね。それは素材が違うので、混ぜてしまうと、今までせっかくPEとか同じ素材のプラスチックで集めてきたものが、だめになってしまうので、はがすなり何なり、別のものにしなければならない。あるいは、その複合素材だけを集めて特別なリサイクルをするような業者が、そばにいれば、それはそれなりにコストパフォーマンスがいいということなんです。

だから、今みたいに手間暇かける少量なものは、そばにそれを行ってくれるリサイクル業者がいて、やってくれるならば、リサイクルに回しましょう。それがいない場合は、普通の燃やすごみとしてやらないと、結局は手間暇かけて分別するだけ無駄だから、むしろわかりやすく簡単に、同じ種類のものを集められるだけ集めましょうというのが、今の基本的な、多分、区であれ、ほかの区も全体的な政策だと思っている。

だから、リサイクルをできるかできないかというのは、性状的にできるできないといえ、全部できるんですよ、多分。手間暇さえかければ。もう、それはやってくれる業

者がいて、その業者の人に、それだけの数を渡すことができるかということと密接に結びついて、その上での施策だというふうにご理解いただいたほうがいいかなと思います。

【岡島会長】

よろしいでしょうか。じゃ、次、どうぞ。

【菅原委員】

お願いします。ちょっとしつこいようで、先ほどからのお話の古着・古布リサイクルなんですけど、私、前回は申し上げたんですけど、長いことやってきても、回収量があまり変わらないというのは、拠点に近い人、利用できる人に限られてしまっているんじゃないかと思うんですね。いつもピラというか、回覧板とかに入ってきてくれますけれども、どうしても私は、1回、2回はバスに乗っていったんですけど、その後はもうあきらめたんですね。ずっと家の中に積んでいるような状態になってしまうんですけども、それはとても残念で。場所を増やしてはくださったんですけど、どうしても行くことができない人、自転車に乗れない人とか、行けないけれども出したいという人が、きっとたくさんいらっしゃるって、数値に表れてこないんだと思うんです。

だから、わがままなようですが、この間も申し上げたんですけど、1年に1回でも、この地域を50メートル置きで回りますとかいう日にちを1日でも設けてくだされば、それを利用する人が、かなりいらっしゃるんじゃないかと思います。それはお金がかかることかもしれないんですけども、そういうのを設けていただきたいなと感じます。

以上です。

【岡島会長】

ありがとうございます。これ、工夫の余地があるか、わからないですね。集めたものを売却で、とんとんになればいいわけだし。何か工夫の、業者さんと組んでみるとか、ちょっと考えてみてください。確かに、重たくなると、それだけでも、もう年取ってくると大変ですよ。来てくれれば、あげるのにというのが、かなりあるんじゃないでしょうかね。そここのところ、よく精査すれば、もうからないかもしれないけれども、とんとんぐらいにはなるんじゃないかという気がしますので、ぜひご検討いただければと思います。

それでは、こちらはみんなプロ集団の方がいらっしゃいますけれども、田口さんからお願いいたします。

【田口委員】

お世話になっています。これから、2020年にはオリンピック・パラリンピックが来るわけなんですけど、特に資源持ち去りの関係については、収集のやり方とかそういう問題なんかもありますし、先ほど織先生から話があったように、所有権の問題というふうなことがありますけど、外国人がお客さんとして世界から来るわけですね。そうすると、そのときに気持ちよく帰っていく。日本という国は楽しかった。きれいだよというふうなことで、また来ていただけるような考え方を持っていけば、いいんじゃないかなと、

そう考えております。それについては、持ち去り、今、自転車をよく、前と後ろとあちこちに積んで、回っているわけなんです、缶や古紙についても、同じようにリヤカーとかそういうものでやっているんですが、そういうのを見て、外国人観光客が気持ちよく帰っていただけるかなというふうにやって、私は時々思うんですね。ですから、きれいに収集ができて、きれいな気持ちで、気持ちよく帰っていただくというふうなことが、大事じゃないじゃないかなと思いますので、私の意見なんですが、よろしく願います。

【岡島会長】

ありがとうございました。いずれ、ここでも検討しなきゃいけないと思います。牧野さん、願います。

【牧野委員】

先ほどからもございましたとおり、資源持ち去りの対策ということ、最近の業界紙の中にも書いてあったんですが、GPSを使って、持ち去った人たちが大体持っていく中間処理の古紙業者さんってあるんですね。そこが月何回か摘発受けていますので、GPSの効果はあるんじゃないかと思います。

あともう一つ、国のほうの政策と同時に、それに基づいて23区さんもやられるということで、3Rの中で、2R、リデュース、リユースに力入れていきますよということで、やっていかれると思うんですが、特にこれからリユース、要らなくなったものをそのまま使わせていただくシステムに乗せていくのに、我々事業者、許可を持っている業者が、家庭の中で要らなくなったものを引き取るということが、特別の場合以外は条例上できないんですね。そのために、これ買い取りますよとあっていて、これ何十万円、お金くださいねと持っていったら無許可の業者が問題になっているんですが、そういう人たちをなくすためにも、今持っている許可業者にそういう、家庭からでも出てくるリユース品を扱えるようにしていただきたいなということを今、先ほど部長さんもおっしゃっていましたが、各区で構成している23区協議会というのがあるんですね。そこにご相談させていただいておりますが、もう一つ前へ進んでいかないんで、ひとつ江戸川区さんなり、山崎部長さんのほうでも、もしそういう部長会ございましたら、ぜひその辺もひとつよろしく願います。

以上です。ありがとうございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。トップランナーを持するんなら、先駆けて江戸川区がそういうことをやるということも、いいことではないかと思しますので、ご検討いただければと思います。

松本さん、願います。

【松本藤隆委員】

いつも概論的な話になって申しわけないんですけども、私は、江戸川区におけるご

みの回収というのは、今の段階ではうまくいっているほうじゃないかなと思っています。それで、逆に私、質問したいんですけども、いろいろとやり方はあると思いますが、この中で、一番区が苦しんでいる。これが困っているんだ。こういう計画のあたりでも、こういういろんな問題があって、ハードルがあって、越えられない問題があって困っているんだということを3つだけ挙げてもらえませんか。逆に聞かせてもらいたいと思うんです。幾つもあると思うんですけども、切りないですから。すみません。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございます。3つということですので、1つは、事業者の皆様に対する部分では、これも分別というところもあるんですけども、要はいろんなものが混ざって出てきてしまって、しっかりと分別の指導といいますか、働きかけができていないという部分もあるんですけども、この辺もいかに徹底できるか。例えばリサイクル回せるものをどう回すかということとか、そういったことをさらに進める。清掃工場に出したものであれば、持ち込みごみというのもありまして、そういったものをどう減らせるかということも、大事かなと思っています。

2つ目は、一般家庭のごみの分別の部分も、まだできていない部分がありますので、特に容器包装プラスチックとかそういった資源とごみをどうしっかり分けられるかということも、大きな課題ということになります。

それから3点目は、若い世代とか外国人、そういった人たちに、どういうふうにそういったことを徹底できるかというふうなことかなと考えてございます。

【岡島会長】

つけ加えることがあれば。

【事務局（山崎部長）】

3つというお話だったんで、今、課長が言ったとおりなんですけれども、我々、一番頭を悩ませているのは、いかにごみを減らすかということなんです。その中で、今言ったようなことが起きているんだと思っています。リサイクル率を上げていかなきゃいけない。その中に、今言ったように、業者にどういうふうに協力いただけるか。そういうところが一番大きな我々の頭の痛いところということでございます。

すみません。

【岡島会長】

ありがとうございました。

【松本藤隆委員】

正直言って、コストパフォーマンスといいますか、もうちょっとお金があればできるとか、逆に金がないからできないという問題、いろいろあると思うんですけども、その辺、いかがですか。一番できないこと。

【事務局（岡崎課長）】

リサイクルは、先ほど織先生も話ありましたけれども、お金かければ、何でもリサイ

クルできるという時代になっております。ただ、それはコストパフォーマンスということがありますので、なかなかできないと。木製品のリサイクルなどがそうで費用の面でできていないということもあります。

【岡島会長】

いろいろ課題がたくさんあるかと思imasので。

【松本勝義委員】

いろいろ話を聞いておりますと、商店街もごみの問題に関しては重大だと認識いたしました。ひとつ、この1カ月前ぐらいに事例がありましたので。外国の方が住む方が多くなりまして、私、京成小岩駅の周辺なんです、韓国人、中国人、それからインド系の人とかです。私の店の裏に引っ越してきました、産業廃棄物を1カ月ぐらい外に放置してまして、みんなから何とかしてくれということで、話したんですけども、とにかく感覚が違うんですね。ここに書いてあります「だめです」とかそういう分別表示を書いても、多分だめだろうというのが私の感覚です。

最終的にはどうしたかということ、隣の敷地との間に、ここは塀をつくられたら、あなたたち一番困りますよと説明しても「わからない、わからない」。それで困りまして、最終的には塀をつくってもらって、それでとりあえず駐車場の中には入らなくなったんですけども、自分の今の住まいの玄関口にはいっぱいごみを置いていると。そういう感覚で、これをどうするかという問題。とにかく仲よくするしかないなど。基本的には、最初は優しく指導するしかないなとは思っております。

この辺のところ、来る側もどうするかというのは、これからオリンピックに向けて考えていかなければならないと思います。商店街も、岡島先生、多言語勉強会を開くんですよ。国から6分の5の補助金出ましてね。そういう時代になっておりますのでね。中国語、韓国語、それから英語でフラッグつくってと思っはいるんですけども。何かありましたらご指導をお願いします。

【岡島会長】

大変ですね。時間はかかるかもしれませんが、区のほうでも、条例等で厳しく指導するようなことも考えてもいいし、中国、韓国、台湾やインドに行ったら、道路の端に物が置かれているところを見ると、文化の違いというのも大きいと思うんですね。ただ、郷に入っては郷に従えということは当然のことですので、それはきちんと伝えていかなければならないですね。それは、民間同士だとけんかになったりして、大変だから、そこに行政なり警察が出ていかなきゃいけない場面があるかと思imasけれども、そこをクリアしないと、先ほど田口さんがおっしゃったように、またオリンピックで、みんなが楽しくできるというところまでいかないんで、大変でしょうけれども、頑張ってください。

それじゃ、鶴沢先生、お願いします。

【鶴沢委員】

ありがとうございます。先日、ごみ屋敷が火事になったというニュースを見ました。私たちから見ると、完全にごみなんですけれども、本人にとってみれば、宝だったのかなということで、認識の違いというのは非常に大きいんだなということで、若い人、それから外国人とかいろんな方々の話を聞いていて、そういうふうに思いました。

大事なことは、協力していく。協働していくという精神というか、考え方をいかに皆さんに植えつけられるかなということのほうが、より大事なのかなという気はしていますが、非常に難しいことだと思っています。

先ほどの持ち去りの件で、皆さん、ご意見がありました。持ち去りというか、私たちは資源として町会や自治会で集めているもの。ごみ収集の方が持っていくものと別に、町会や自治会で集めているものについては、たしか1キロ6円のバックがあります。ですので、私たちとしては、それを今日持っていってもらうんだと思って、ちょっと出しておいた。それを持っていかれたら、申しわけないけど、町会や自治会や学校PTAからすれば、大事な活動を資金を持っていかれたというほんとに泥棒です。そういう思いであります。私たちは、もちろん自分たちが使ったものを出すのは当然だけれども、それを自分たちの活動資金にも使いたい。それから資源をリサイクルしてほしいという両方で活動しているわけなので、そういう思いがあります。

それから、一般収集でもそうですけれども、正直な話、葛西地域では分別が下手です。私も幾つかのマンションを見てきましたけれども、非常にいい加減であります。生ごみも、それからプラスチックも一緒になっているのは山ほどあります。こういうのをじゃ、私がマンションの一住民として言えるかとなったとき、それから管理人さんがそこを張ってもある。それから外にわざわざ出してメモもしてある。でも、それが1週間も2週間も3週間も置いたままなんです。こういう人たちの意識をどういうふうに変えていくのかということが、とても大事。一生懸命やっている人はほんとに細かくやっています。ですので、この差が余りにもあり過ぎるなというのを感じます。

もう一つは、生ごみ系、資源も含めてですけれども、昔は例えば5軒とか10軒とかまとめて、何曜日にここですよとっていたのが、聞くところによると、1軒1軒だというのが最近だそうです。これじゃ、お金はかかるし、それからその徹底の人的なあれもできないということになりますので、この辺のことも、どこまで行政でやるのかというのはちょっとまたあれですけれども、個別収集というのはちょっと考えものかなと思うので、これもほんとにコミュニティを大事にするとしたら、ある程度のところはお互いに協力してね。つまり自分の前に置かれたら、掃除をしなきゃいけない。それから置いていかれたもの、困るというあれなんですけれども、そういうのも、お互いコミュニティをまたしっかりと近所づき合いをしていくということが、ごみの問題も最終的にはそういうことかなと感じています。

先日、北九州に行って、エコタウン事業を見てまいりました。ここは、ごみは資源ということで、ほとんどごみを実際出さないんですけれども、どうしてそうなったかとい

えば、郊外に埋め立て地がたくさんあり、そこに数十社の企業を呼んで、きちんとペイできるようにして、それをやっているというところなんですけれども、そこまでは23区とかそういうのは当然、無理だと思うんですけれども、考え方を勉強してきました。

それに対して北九州市民が協力しているというところが、私たちとしては、江戸川区民としてならなきゃいけないなということを今回学んできたところですので、気持ちというか、きちんとした、皆さんが資源だよということと、それから人の迷惑かけちゃいけないよ。そして協力していこうねという部分を徹底していきたいねということを感じさせていただきました。

ありがとうございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。ここ、今までは町会長さんがいろいろやってくれて、町会とか団地はいいんですよ。新しくできたマンションというのは、自分勝手な感じになってくるんで。この辺は、ごみの問題というよりは犯罪の問題、あらゆる問題も、区政として大変大事なことなので、また総合的にいろいろありますので区議会でも取り上げていただきました。

それでは最後に織先生から、総括講評のようなことをひとつお願いいたします。

【織副会長】

ありがとうございます。皆さん、いっぱい意見を言われたんですけれども、私としては、せっかくEdogawaごみダイエットプランということなので、国の施策とどの辺が連動しているのかというのは、もうちょっとクリアになるといいかなと思います。つまり、3Rで排出の発生抑制、それからリデュース、リサイクルという優先順位が、今、リデュース、リサイクルという形に2つになって、2Rになってきています。それを受けて、目標達成に向けた施策展開も、リデュースのあたりを重点的にやっていますというのが見えてくるといいかなと思います。特に古着・古布とかフードドライブ、ああいう形の試みは、ほかでも、なかなかやっていないことなので、そういう点で、江戸川区でやっているというところは、もうちょっと強く出していただくというか、その辺、国と連動して、その流れを受けてやっていますというのが見えてくると、すごくいいかなと。

さっき隈元さんもおっしゃっていたように、施策が一つ一つわからないという気になってしまうので、強弱をつけていただいて、アイウオエ、カキクケコの後には二重丸とか丸とか、特にこれが重要ですよ。どれも重要なんですけれども、今回の中間では、これが二重丸でやりたいですみたいな形で見せていただくと、すごくわかりやすいかなという気がします。

こういうのを見ていると、いつも23区、どこでも一緒だなと思っちゃうのは、すごく残念だと思うんですね。江戸川区は江戸川区でコミュニティがあって、まさにコミュニティがあって、多分、おせっかいな方がいっぱいいらっしゃるって、外国人にも教えて

あげようみたいな気のある方、いっぱいいらっしゃると思うので、そういうよさがこういう中間改定のところにもにじみ出るというか、そういうのを生かしたこういう施策なんだなというのが見えてくると、すごく江戸川区らしいところになるのかなという気がしております。

以上です。

【岡島会長】

どうも皆さんありがとうございました。私もいつもそう思っているんですけども、大事なことは、今、織さんが最後におっしゃったようなことですね。江戸川区は横並びでいいやという区ではないんですよ。頑張ってトップグループに入ってきているわけですから。いわば一お役所的な関係からもう一步踏み出してほしい。松田先生が踏ん張って、この区を環境のトップグループに入れてくれたわけです。松田先生は、皆さんご存じのように容器包装リサイクルの先駆けとなった川口市で、それを主婦として実践されて、最後は国の審議委員だの、法律つくるところ、それから大学の先生までなられた方なんですけれども、その方大変なご努力で、区長も動き、何も動き、江戸川区がかなり頑張ってきた。そこを忘れないでね。織さんが跡を継いでいるんでしょうけれども、区としては誇りというか、目標をもうワンランク高いところへいつも置いておいてほしいんですね。だんだん普通の区になってくるんじゃないか、こういうのを見ていると。そこはぜひ忘れないようにやっていただきたい。

それから、NPOとか町会とかそういうところとの連携作戦をかなり強化しないといけない。今、鶴沢先生もおっしゃっていたけれども、その辺のところの連携プレーですね。業者さんとはきちっとやっていると思うんですけども、もうちょっと市民団体育てるとかそういうところも、少し考えたらいいと思います。

私、今回の中では環境教育が一番に出てきているので、非常にいいなと思ったんですけども、最近すごく売れている本で『フランス人は10着しか服を持たない』という本があるんですね。これ、40万部か50万部、もう出ていて、世の中のお母さん、お嬢さん、みんな買っているらしいんですけども、日本人は大体100着以上持っているでしょう。それをみんな、いや、下着まで全部入れるとね。日本の女の人は、ものすごい量を持っているんですよ。それ、フランス人は10着しか持たない。そのかわり、10着とも高いものを持っている。着るのは、いつも着回しで、売り買いで、たんすの中には10着しかないというようなことが、書いてあるらしいんですよ。その本が売れているというので、今度、ぜひ皆さん、読んでいただいて、ごみ出さないというところからスタートを。それは教育なんですよ。環境教育で、そっちのほう結局はおしゃれな生き方だし、気持ちのいい生き方じゃないでしょうかというようなことをいろんな、手をかえ、品をかえ、エコセンターなどと一緒にやりながら、一般の方々に出せばいい。移民じゃないけれども、松本さんのほう、お困りになっている方とも、大変かもしれないけれども、そっちは気持ちいい。日本ではそういう生活しているんだよということを

もう少しいろいろ教えてあげれば、お互いによくなるんじゃないか。うまくいくとは限りませんがね。方向としてはそういう方向で、これは環境部、大変だと思いますけれども、エンジンですから。その辺のところは少し、要するに並みのエンジンではなくて、性能のいいエンジンということで、またハッパかけて申しわけないんですけども、そういうことでやっていただければと思います。

委員の皆様もぜひ江戸川区良い方向に持っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

区のほうから何かご説明ございますか。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございます。それでは、最後にこちらから、1つ目は、先ほど机上配付いたしました議事録でございますが、これ9月18日の金曜日までに清掃課の庶務係まで、もし訂正等ございましたら、ご連絡をお願いいたします。

なお、次回の審議会の日程でございますが、12月上旬を予定しておりますので、決まりましたら、またお知らせをさせていただきます。

以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。それでは、今日はこれで終わりにしたいと思います。どうも皆さん、ご苦労さまでした。

了